

第2回狛江市基本計画策定分科会（第3分科会）会議録

- 1 日 時 令和6年4月11日（木）午後7時～午後8時40分
- 2 場 所 特別会議室
- 3 出席者 委員長 渡辺 秀貴 副委員長 加藤 雅江
副委員長 梶川 朋 委 員 鈴木 京子
委 員 関 剛 委 員 森高 聡美
委 員 宗像 秀樹 委 員 富田 泰
委 員 波瀬 公一
事務局 杉田政策室長 中村企画調整担当主査
- 4 欠席者 なし
- 5 議 題 1. 【まちの姿4 子どもがのびのびと育つまち】現状と課題について
2. 【まちの姿6 生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち】現状と課題について

6 会議概要

議題1 【まちの姿4 子どもがのびのびと育つまち】現状と課題について

－事務局より資料の説明－

【委員】

高校生と中学生2人の子がおり、狛江市の子育て施策を受けてきた。

子育て施策の基本的姿勢について、困っている方への支援と市全体への支援と大きく大別されると思うが、子育て・教育分野では両方の支援についてバランス良く進めていくことが必要であると思う。

多摩川の活用について、もっと遊びに行きやすい環境になれば良い。特に和泉多摩川駅から河川敷までの整備の充実が必要である。市民意識調査でも住みにくい理由として「お店が充実していないまちだから」が挙げられているが、和泉多摩川駅周辺で買い物やキッチンカーを利用して多摩川へ遊びに行ける環境があると良いのではないか。

子どもたちが友達同士で過ごす場所が少ないと感じていた。公園の1人当たりの面積についても近隣自治体と比べても少なく、子どもたちとも狛江市外の公園に遊びに行くこともあった。小中学生アンケートの自由記述欄においても「屋内施設が少ない」といった意見が出ていた。

スポーツについても子育て施策と連携して推進していく必要があると思う。

学校教育について、コンパクトシティならではの取組も進めていただいている。

ギガスクール構想が進められ、タブレット等が配られているがSNS等の対応についてどこまで介入すべきなのか難しい部分があるが、市や学校全体で教員や保護者への指導についても検討すべき事項であると考えます。

不登校について、何件か不登校の話を目にすることがある。コロナ等の影響もあるかと

思うが、教員の個別の対応に委ねられているのではといった感想を聞いたことがある。

資料では、学校復帰率が増加しているとの評価だが、単年度のみでの評価であると思われる。学校に戻るだけが選択肢ではなく、それぞれの居場所ができることが重要であり、自宅やフリースクール等の活用も解決策の一つである。

【委員】

河川敷や公園の整備について、近隣住民の協力や学校教育の一環で子どもたちによる整備等も考えられるのではないかと。

【委員】

水辺の楽校というボランティア団体が活動しており、台風が来る度に清掃しており、近隣の学校とも連携している。

各学校から代表者が集まる「環境サミット」も毎年開催しており、複数回勉強会を経たのちに成果を発表するプロセスで実施する予定である。

【委員長】

近隣の学校は授業の中にも水辺の楽校の取組を取り入れている。

【委員】

多摩川のバーベキューについて、以前は騒音、ごみ等の問題が多くあり、条例施行した経緯がある。その他にドッグランも試行的に実施した。

【委員】

公園の質について、遊具が充実した公園が少なく、市外の公園まで連れて行ったこともある。待機児童はどれくらいいるか。

【委員】

集計前ではあるが保育園、学童クラブともに待機児童が存在する。学童の待機者については、KoKoAも併せて活用いただいている。以前は5施設しかなかった学童クラブは、17施設まで増えているが待機児童がいなくなる状況である。

【委員長】

学童クラブについては、場の提供とともに職員の配置も考えていく必要がある。

【委員】

以前は、在籍していても学童クラブに実際には行っていない子がいるという話を聞いたことがある。

保育園や学童クラブの充実については市の施策として評価すべきである。

昔のように近所の大人たちが見守るという状況ではなくなっている。

【委員長】

防犯といった面から見ても、自治会も以前のように機能していない。高齢化や若い世代の担い手不足が課題として挙げられている。子どもたちの安全の面からも地域力を上げたいと思っても自治会や育成会の活動が少なくなっている。

不登校の話題も出ていたが、全国で30万人もの子どもたちが登校できていない状況で

ある。狛江市の不登校出現率は全国と比較すると低いと思われる。

【副委員長①】

フリースクールに通うにも補助を活用しても月に2万円程度は費用がかかってしまう。裕福な家庭だけが通えるという状況は避けなければならない。また、学校に戻るだけが解決ではなく本人がどこで過ごすかをサポートする体制が必要である。

【委員長】

全国でも児童生徒の自殺者は約500人であり、大人の自殺者は減少しているが、児童生徒の自殺者は増加している傾向である。

【副委員長①】

小中学校においても自傷行為やオーバードーズをしまっている児童生徒がどれくらいいるか等も踏まえて検討していく必要がある。

【委員】

子どもへのケアも当然に必要なが、親へのケアも同時に必要である。

【副委員長①】

そういった部分はデータに出づらな状況であり、子ども・若者・子育て会議で子どもの生活実態調査における調査項目を検討した。時間に余裕のある家庭であれば調査に回答することができると思うが、そうではない方もいる。調査に回答できる家庭の声がどんどん大きくなってしまふ可能性がある。

【委員長】

画一的な教育が向いていない子どももいる。学校復帰だけでなく、本人にあった学びの機会の提供が必要である。

学校の教員が足りていない状況もあり、社会全体の課題でもある。教員の時間外労働等の課題もあり働き方改革も進めていく必要がある。

【委員】

負の連鎖も断ち切る必要がある。経済的に支援が必要な家庭であっても将来、社会で活躍できるんだという教育を進めていく必要がある。

【委員長】

学校現場においても、自分に合った職業選択を勧める教育を実施している。

また、タブレットの活用方法については、各家庭に委ねる部分もあり、使用方法等の習熟度については各家庭で差が出る状況もある。

【副委員長②】

小中学生アンケートの結果を市が真摯に受け止める必要がある。子どもを主体とした支援がこれからの施策で重要になると考えられる。

現行計画で子ども権利擁護という言葉があるが、ここが重要であり、子どもを取り巻く家庭、地域、学校を支えるといった視点が必要である。

最近若い世代が子どもの居場所づくりにボランティアベースで広がってきている。

また、地域住民がゆるやかに子どもを見守れる環境が必要である。学校教育においても個人の習熟度別などマイプランによる教育支援や特別支援教育、外国ルーツの子どもへの支援、医療的ケア児の受け入れの充実も必要である。

空き家を活用した居場所でも不登校の児童生徒を受け入れている。狛江市内にはフリースクールがない状況であり、どう地域で学びと育ちを保証していくのかといった受け皿の問題もある。

【副委員長①】

子ども条例については、他市の状況等を見ても、本当に子どもの声が活かされているかが気になるころではある。子どもたちが自分の意見表明ができる状況を作っていくことが必要である。子どもたちが自分の声で自分の思いや希望を伝えられるような場や人とのつながり作るというところを目標にし、そのような土壌作りを狛江で進めていけるように打ち出していきたい。大人がコントロールしすぎないことが必要である。

以前に比べ、空き地がなくなってきている。空き地があるということで目的がなくその場において、考えることができた。安全面の視点から仕方のないことではあるかもしれないが、子どもの意見がでづらい状況になってきているかもしれない。

【委員長】

子どもは自分たちの純粋な思いを発していいと思っていない。そのような育ちの環境が続いている。大人の意識が変わり、子どもの本音が出てこないと本質に迫った施策に取り組んでいくことができない。

【副委員長②】

学校教育というシステムに最初から馴染めない子も存在している。就学前から集団での生活には馴染めないが、少人数では力を発揮する子も一定数いる。受け皿や場を作ってもどのように教育を保障するのが重要である。

議題2 【まちの姿6 生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち】現状と課題について

—事務局より説明—

【委員】

和太鼓ができる場所が少ない。音が出せる施設を整備していただきたい。

【委員】

市民センター改修後は、小中学生が放課後に活動できるスペースを確保する予定である。

【委員】

図書館の本が貸出中となっており、なかなか借りられないことがある。

【委員】

電子図書館も推進しており、広域での連携もしている。

【委員】

スペースの問題もあると思うが、最新の情報を入手することが重要であり、百科事典的なものだけでなく、インターネットの活用や検索できるツールも必要である。

【委員】

図書館整備についても他市の状況を視察に行ったり、市民ワークショップの開催をしてきている。蔵書冊数の増加やフロアごとのコンセプトを持った図書館を整備していく予定である。

【副委員長①】

新図書館整備については、子どもが排除されているのではないかという声もあった。

お母さんたちも子どもに本を見せている間に自分の本を見つけられるという形が難しくなるのではないかという市民の声も聞いたことがある。

【委員長】

小学校1年生の児童に本を贈呈するセカンドブック事業も実施しており、特徴のある取組であると考えます。

【委員】

ちょっとうるさくしても許さる環境も大事ではないかと考える。

【委員】

市民センターにはスタディコーナーや地下のヤングコーナーも設置する予定である。

【委員長】

乳幼児から大人まであらゆる世代の方たちがそれぞれの世代に合った学びをできる空間が共有されるということは、コミュニティの話にもつながる部分があり、子どもの声がうるさいではなく、大人が子どもたちに図書館の過ごし方を諭せるような関わりの場があった方が良く、合理性や効率性だけを求めると分けていくことしかなくなってしまう。

大人でも権利を主張される方もおり、子どもの声がうるさいという話が大きくなれば分けるという選択肢になる可能性もある。

【委員】

母の話だが、気になる子がいても注意したら殴られたり、その親から何かされるのではと心配、何も注意できずに見て見ぬふりをしてしまうという考えになるとのことであった。

【副委員長①】

お互いを知らないからそのような状況になってしまうため、分断をしない方がお互いを知った上で声をかけやすくなる。できるだけ分断をしない方向で考えた方がよい。

【副委員長②】

多世代が交流できる居場所では、子どもの声が気になる高齢者もおり、交流できる場とゆっくり過ごせる場の両方を提供している場合もある。

その場の公共性が問題であり、誰もが使用できる場としての環境づくりが必要である。

市民センター改修についても場の提供と人材の配置が重要である。

【委員長】

古民家園の利用率はどのようになっているか。

【事務局】

自由に入出りができる施設であるため、親子や保育園等の散歩といった用途で利用されている。

【副委員長②】

古墳公園も先進的な取組であると考えられる。課題にもあるように文化財の保存場所と展示場所が今後どのようなになるか。現在、市内には郷土資料館がないが、展示をして市民が文化財を見て触れて後世につないでいける場を整備していく必要がある。

【委員】

以前は西河原公民館に飾ってあったこともある。既にある施設に展示する方法もある。

【委員】

小川塚古墳を見に行っただが、長時間滞在できるような場所ではなかった。歴史を感じられる場所を市全体として活用できるようなことができれば良い。子どもたちを連れて回れるような、遊びながら勉強できるようなことができると良い。

【副委員長①】

郷土かるた等の活用も子どもたちに市内の歴史等を学んでもらえるツールである。

【委員】

古墳公園等について、綺麗に整備されているが知らない市民が多く存在すると思われる。

【委員長】

駅の構内に広報誌があっても取る方は少なく、ネット情報も多岐に渡るため伝わりづらい状況もあるかもしれない。

【副委員長①】

スタンプラリー等のイベントも他市からの来訪も含め、有効と考えられる。

【事務局】

次回は、施策の体系案と現状と課題についてご確認いただきたい。次回の会議日を5月10日（金）とさせていただきたい。

【委員長】

その他特に意見等なければ、第2回狛江市基本計画策定分科会を終了とする。